

2021 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 目野 郁子	職名 教授	学位 博士 (医学) (九州大学 1994 年)
----------	-------	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
病原微生物学 免疫学	微生物 感染症 感染対策 ワクチン 抗体

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生支援の一つとして、本学保健福祉学部 1 年生を対象に健康管理カルテを作成しその有用性について検討を行う。 ・ 看護学科 1 年生を対象にオンライン講義における初年次教育プログラムについて教育効果の検証を行う。 ・ 保育園をモデルに感染症流行を制御するために効果的な感染症予防対策について検討する。

担 当 授 業 科 目
感染と免疫 (前期) (看護) 生物と生命科学 (前期) (看護) 生物と生命科学 (前期) (福祉・栄養) 初年次セミナーI (前期) (看護) 初年次セミナーII (後期) (看護) 微生物学 (後期) (福祉)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【感染と免疫：看護】 ① 専門基礎科目のため、教科書とパワーポイントを使い感染症についての基礎的知識をわかりやすい言葉で説明した。また、新型コロナウイルス感染症など感染症についての最新情報を講義に取り入れた。 ② 昨年同様、早期から講義の復習を促す意味で小テストを 2 回実施した。 ③ 講義への積極的な参加を促す一案として、今年度は、教員側から学生に質問をする、また、講義の振り返りとして、学生にスライドを見ながら復唱してもらうなどの取り組みを行った。 ④ 講義内容がかなり多いため、講義で質問を受ける時間をとる、メールで質問を受けるなどの対応をした。
授業科目名【生物と生命科学：看護】 ① 受講動機が、“関心ある内容と答えた学生が 49.3%”と低いため、まず、興味関心をもってもらうことを一番とした。講義では、“興味や関心をもてるように” 日常生活のなかで気づく体の正常なしくみと異常(疾患)” に焦点をあて講義を行った。 ② 学生の復習の機会を早期からつくる目的で、昨年から実施した小テスト 2 回の導入を今年度も実施した。 ③ 講義への積極的な参加を促す一案として、今年度は、教員側から学生に質問をする、また、講義の振り返りとして、学生にスライドを見ながら復唱してもらうなどの取り組みを行った。 ④ 講義の後半に必ず質問を受ける時間をとった。

授業科目名【生物と生命科学：福祉・栄養】

- ① 多くの学生が高校の時に文系コースで学んだと思われるため、講義では高校で学ぶ生物を基礎に、大学での講義に興味や関心をもてるように、“日常生活のなかで気づく体の正常なしくみと異常(疾患)”に焦点をあて講義を行った。また、講義内容を理解しやすいように、わかりやすい言葉・表現を使うよう心がけた。
- ② 学生の復習の機会を早期からつくる目的で、講義進行に合わせて小テストを2回実施した。また、ポイントの整理を提示して学びの振り返りを促した。
- ③ 講義への積極的な参加を促す一案として、教員側から学生に質問をする、また、講義説明後には、学生にスライドを見ながら復唱してもらうなどの取り組みを行った。
- ④ また、講義の後半には、質問を受ける時間をとり学生の積極的な参加を促した。

授業科目名【初年次セミナーⅠ：看護】

- ① 昨年度の課題であったグループ学習については、グループ学習導入として講義3回目に学生の交流を図る場を1コマ設けた。また、ミニレポート・レポート作成の進行途中に意見交換の場を作ることでグループ学習の機会を増やした。
- ② 学生の学習スキルをアップするために、ミニレポートではレポートの書式(構成)と文献検索スキルの習得を重点に、レポート作成では講義の流れを、考える・思考に重点におき授業を展開した。
- ③ 担当教員5名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。

授業科目名【初年次セミナーⅡ：看護】

- ① 初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。
- ② 学習内容・進度にあわせた講義進行を行い、発表・まとめを12月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。
- ③ プレゼンテーションの評価表について、評価表の見直し・修正を行った。
- ④ 発表時の評価は、担当者5名に看護学科教員1名を加えた計6名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。
- ⑤ プレゼンテーションの後、学生・教員による評価を行い、優秀賞と準優秀賞を選出し発表の場を設けた。また、グループ別に評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

授業科目名【微生物学：福祉】

- ① オンライン講義であることを意識し、教科書の重要点をパワーポイントにまとめ、わかりやすい言葉で説明した。また、新型コロナウイルス感染症などの最新情報は積極的に講義に取り入れた。
- ② 教科書を用いて講義の振り返りを促すために、講義進行に合わせてポイントの整理をclassroomにアップした。
- ③ また、小テストを2回実施し、試験後には試験結果と解説を行ない学生にフィードバックした。
- ④ 講義への積極的な参加を促す一案として、教員側から学生に質問をする、また、講義説明後には、学生にスライドを見ながら復唱してもらうなどの取り組みを行った。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本細菌学会		1987年4月～現在に至る
日本感染症学会		1996年4月～現在に至る
日本小児保健協会		2000年4月～現在に至る
日本環境感染学会		2004年4月～現在に至る
日本ワクチン学会		2016年4月～現在に至る

2021年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) 1. オンライン講義による初年次教育の学修効果 - 批判的思考態度からみた看護学生の学び -	共	2022. 3	西南女学院大学紀要 vol.26 (in press)	① オンライン講義による初年次教育の学修効果を「批判的思考態度の修得」「学修行動目標達成状況」の側面から経時的に把握し検討した結果、学修行動目標の達成には論理的思考の強化とグループ学習を効果的に行うための主体的に取り組む姿勢「探求心」の育成が必要である。 ② 高橋甲枝, 目野郁子, 笹月桃子, 新谷恭明, 中原智美 ③ (in press)
(翻訳) なし				
(学会発表) 保健福祉学研究所報告会 1. 女子大学生を対象にした健康管理カルテの作成と有用性	共	2022. 3	西南女学院大学保健福祉学部 附属保健 福祉学研究所	① 女子学生の健康に対する意識を高め、学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みを実施するための方法として、「健康管理カルテ」の作成を行なった。今後、その有用性を調査し、改良を重ねることで、より学生にとって利用しやすい「健康管理カルテ」を作成する。 ② 樋口由貴子, 目野郁子, 高崎智子, 水貝洵子, 山田恵, 大内田知英 ③ 2021年度西南女学院大学保健福祉学部 附属保健福祉学研究所報告会 教育研究業績 (2021. 4. 1-2022. 3. 31日現在) 著書 0 (内訳 単 0 共 0) 学術論文 1 (内訳 単 0 共 1) 報告書 0 (内訳 単 0 共 0) 学会発表 0 (内訳 単 0 共 0) 研究所報告会 1 (内訳 単 0 共 1)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
女子大学生を対象にした健康管理カルテの作成と有用性	西南女学院 大学 保健福祉学部 附属保健福祉 学研究所 研究費	○樋口由貴子 <u>目野郁子</u> 高崎智子 水貝洵子 山田恵 大内田知英	192,500

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・福岡県食品安全・安心委員会 福岡県知事の附属機関である「福岡県 食品安全・安心委員会」において、 食品の安全・安心の確保に関する基本 計画等について調査審議する。	委員	2021年5月1日～2023年4月30日
・遠賀・中間地区保育協会の会員を 対象に「感染症予防-予防接種につい て」というテーマでe-ランニングによ る研修を行なう。	研修会講師	2022年3月22日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事委員会 委員長 2017年4月1日～ 現在に至る ・ 動物実験委員会委員 2016年4月1日～ 現在に至る ・ 保健福祉学部附属保健福祉学研究所運営委員 2003年4月1日～ 現在に至る ・ 外部資金促進導入プロジェクト（統括管理責任者） 2021年4月～ 現在に至る ・ 看護学科推薦入試合格者に対する入学前課題担当 課題提示と提出された課題の評価及び面談により個別学修支援を行う。2009年～現在に至る。 ・ 学生の健康支援 保健室と協働し保健福祉学部、人文学部、および助産別科の1年生を対象に、毎年学科毎にワクチンで予防可能な感染症について感染症予防の説明を行ない（予防接種手帳配布・抗体検査結果配布）、予防接種が必要な学生には個別に面談し接種勧奨を行なっている。2011年～現在に至る。
--